

研究授業用の指導案の書き方

松沢 伸二 Matsuzawa Shinji

(新潟大学)

1 はじめに

私は教育学部に勤務する関係から、中高の先生方の研究授業を参観する機会が多い。右のページに示したのは、「このように書いていただくと、参観者にはありがたい」という思いでまとめた研究授業用指導案 (teaching plan) の書式である。以下にその意図と書き方を説明する。(1. クラスの実態, 2. 本時の位置づけ, 3. 本時の目標, は省略してある。)

2 指導過程ごとに区切り、目標を書く

英語の授業は Warm-up, Review, Presentation, Practice, Production, New Words, Reading, Consolidation などの指導過程から構成される。研究授業後に開かれる協議会では、こうした指導過程ごとに検討されることが多い。そのため、指導案が指導過程ごとに区切られ、その過程固有の目標が記述してあると、当該指導過程は良かったのか、改善すべき点は何なのか協議しやすくなる。

例えば「指導過程 1: Warm-up (5 分)」で、生徒が JTL (Japanese Teacher of Language) の友達の写真を見て、JTL に英語で質問する場合は、「a. 本指導過程の目標: ①英語の雰囲気が醸成され、生徒は英語で話したくなる。②生徒は既習表現を用いて簡単な英語で質問できるようになる。」などと、当該指導過程で生徒ができるようになることを期待する目標を、「生徒は…できる」という形で記述する。

3 指導と学習を評価する観点を書く

教師は優れた指導をしているか、生徒は良い学習をしているか、参観者は各自の評価観点で授業を見がちである。しかし研究授業を担当する教師自身には、「この指導過程で自分がこのように進めてい

れば OK で、生徒がこのように学んでいれば期待どおりだ」といった意図がある。これが指導案に明記されていると、参観者は研究授業の趣旨に適った評価ができ、協議会での議論のポイントが絞られて生産的になる。

「b. 教師の指導の評価観点」は、「教師はいろいろな質問が出るようアドバイスをしているか。」のように書く。この項目は、参観者が教師の指導を評価する観点として特に重要な事柄について、「教師は…しているか」という形で記述したい。同様に「c. 生徒の学習の評価観点」には、生徒の学習のうち特に重視する事柄を取り上げて、「生徒は既習表現、文法を用いて、情報を得ようとしているか。」などと、「生徒は…しているか」型で書く。こうした記述があれば、指導と学習のできばえの判定が確実になる。

4 シナリオ形式で書く

研究授業後の協議会では、教師が実際にどのような文言で指示したか、それに生徒はどう応答したかが検討される。この種の議論のためには、劇のシナリオのように、こうした発話の実際を指導案に書き込むとよい。学校全体で 2, 3 クラスの授業が同時に公開されて、参観者が 15 分や 25 分ごとに教室を移動する場合がある。こうした時に指導案がシナリオ形式で書いてあると、見られなかった指導過程についての協議にも加われるのでありがたい。

「d. 指導手順 教師の働きかけ」には「JTL: We have a lot of guests today. We have one more guest. I'll introduce you one of my friends. His name is Thomas. Please call his name, class. Are you ready? セーの!」, 「生徒の応答/活動」には「Students: Thomas!」などと書く。

(1. クラスの実態, 2. 本時の位置づけ, 3. 本時の目標, は省略してある。)

4. 本時の展開

指導過程 1 : (.....分)

a. 本指導過程の目標 :

b. 教師の指導の評価観点 :

c. 生徒の学習の評価観点 :

d. 指導手順

教師の働きかけ	生徒の応答／活動	留意点
.....		

e. 板書計画

.....

f. 配布ハンドアウト

.....

指導過程 2 : (.....分)

a. 本指導過程の目標 :

~~~~~

なお「留意点」の欄には、当該指導過程の学習指導において予期される問題とその解決策、準備すべき教具、生徒の活動形態(ペア／グループ)などの事柄を書いておく。

## 5 板書とハンドアウトの計画を書く

授業の上手な教師ほど、黒板に何をどう書き、いつ消すか、どんなピクチャー・カードをどのタイミングではるか、授業終了時の黒板には何を残すか、といった板書計画を綿密にたてる。指導案の「e. 板書計画」に前もって板書の縮小版などが示してあれば、その良し悪しを生徒の様子を見ながら評価できるのでありがたい。これがないと参観者は板書を書き写すのに忙しく、大事な場面を見逃したりする。

生徒に配るハンドアウト類には、研究授業の「研究」部分を反映する新しい取り組みが表れているこ

とが多い。「f. 配布ハンドアウト」に当該指導過程で使う印刷物の縮小版を示し、実物を指導案末尾に添付すると、どのプリントが使われたかが一目でわかり、「研究」部分の議論を深めることができる。

## 6 おわりに

上の指導案の書式は詳細なものである。A4用紙であれば、両面印刷でもかなりの枚数になる。労力が必要だが、参観者から良い観察と鋭い意見を引き出すためには、こうした具体的な指導案が必要だ。

詳しい指導案を書くことは授業の優れた予定演習になるから、本指導案の書式は授業参観者だけでなく、研究授業の教師と生徒に恩恵を与えるものでもある。(本文中の指導案の書き方の例は、新潟大学附属新潟中学校大岩樹生教諭の2005年10月26日の研究授業の指導案から引用させていただいた。)